

総合的な学習の時間・選択教科に役立つ
国際理解教育の手引き

同じ地球という空の下で

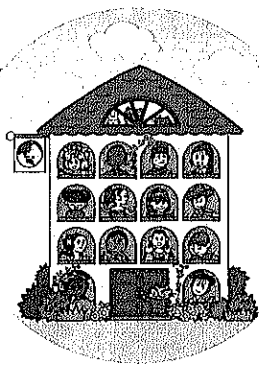
■平成13年度中学校教師海外研修に参加して■



国内国

J R

JICA
国際協力事業団



はじめに

国際協力事業団（JICA）は、政府開発援助（ODA）のうち「人づくり、国づくり、心のふれあい」を合い言葉に、研修員の受け入れ、専門家・青年海外協力隊の派遣などの「人を通じた国際協力」を中心に実施する特殊法人です。

日本は今では世界有数のODA供与国となりましたが第2次世界大戦後しばらくの間は、被援助国として諸外国の支援により復興を果たし、その後高度経済発展を遂げるに至りました。今の日本の繁栄も開発途上国をはじめとする他国との相互依存の上に成り立っています。現在、世界最大の援助国となった日本には、開発途上国のニーズに応え、世界の平和と発展に積極的に貢献していくことが求められており、人を通じた国づくりを支援しているJICAの責務はますます高まっています。

JICAは現在、国民の皆様にも私どもの活動に「理解、支持、参加」をいただくため、国民参加型の国際協力事業の推進とその一環としての開発教育支援に取り組んでいます。

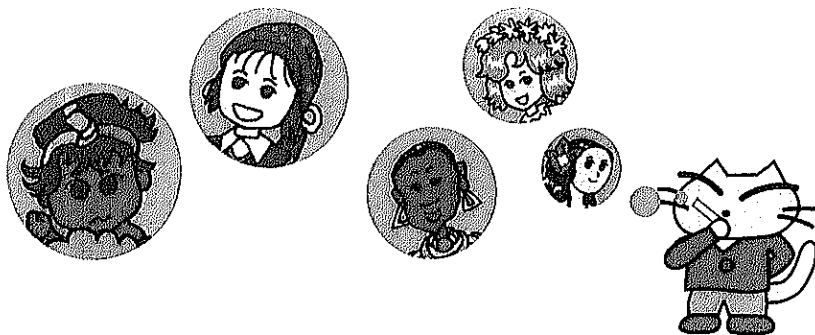
全国の中学校において開発教育や国際理解教育に取り組んでいらっしゃる先生方や開発途上国の抱える問題に関心を抱いている先生方を対象に開発途上国における経済、社会、教育の実情やJICAの実施する国際協力の現場視察を目的とした研修旅行を実施しています。今回の研修では、ラオス11名、ホンジュラス12名、ザンビア15名、合計38名の先生方に約2週間の研修に参加していただき、開発途上国および国際協力に対する見聞を広めていただきました。

この度、研修に参加された先生方のご協力により、研修で得た経験にもとづいて行った授業実践例を冊子としてとりまとめました。この冊子が開発教育や国際理解教育に関心のある方の参考となり、総合学習の一助になれば幸いです。

平成14年10月

国際協力事業団

国内事業部長 湊 芳郎



はじめに

研修を生かした授業実践例

■ ボランティアに携わる人々を通して「生き方」の自覚を 深める指導の工夫 —教科・道徳・特別活動の横断的学習を通して—	小針美由紀	4
■ Let's Think about International Cooperation through English —「英語で国際協力について考えてみよう」—	寺島 清一	10
■ 紙幣からみるザンビア —自国の誇り・国民の願いが込められた紙幣から学ぶ国際理解—	内山えり子	21
■ 「豊かさ」と「貧しさ」の違いを探る	武部 公也	27
■ 国際協力、ラオスの自立 —同じ人間として共に生きていこう—	中野 喜久	35
■ アジアの仲間 —ラオスの人々の表情を描こう—	白山 真澄	41
■ 「森の国」ラオスを探ろう	黒田 紀子	52
■ Walking Our Way —地球人の一人として—	中澤 久寿	62
■ みんなでホンジュラスへ	岩本 辰明	66

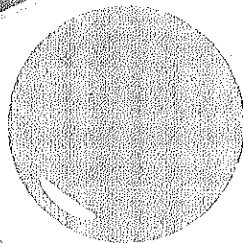
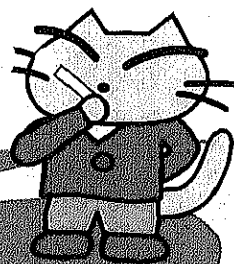
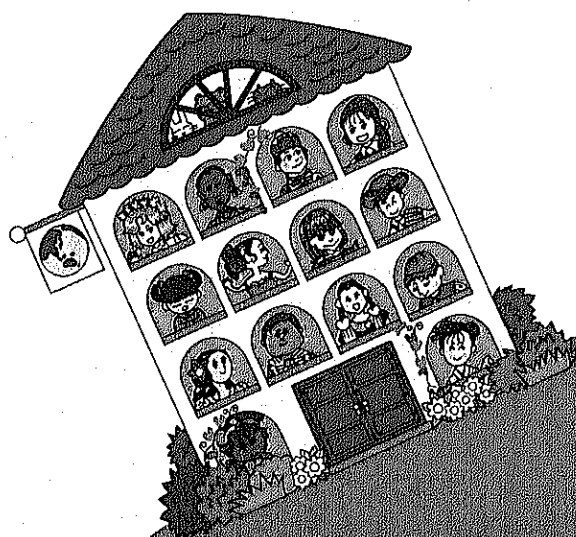
参考資料

■ 募集概要	70
■ 事前研修	72
■ 東京研修日程	73
■ コース別日程／参加者氏名（ザンビア）	74
■ コース別日程／参加者氏名（ラオス）	77
■ コース別日程／参加者氏名（ホンジュラス）	80
■ 訪問国概要	83
■ 開発教育関係団体及び教材紹介	86
■ JICAはこんなこともしています	92
■ 地域国際化協会一覧	93
■ 問い合わせ先	95



1192263 [0]

研修を生かした 授業実践例



ボランティアに携わる人々を通して 「生き方」の自覚を深める指導の工夫

— 教科・道徳・特別活動の横断的学習を通して —



小針美由紀

KOBARI MIYUKI

福島県郡山市立郡山第七中学校/社会科

実践教科/社会科・道徳・学級活動

時間数/6時間

対象生徒・学年/中学校1年

対象人数/38名

カリキュラム案

■実践の目的

この夏のザンビア研修で忘れられないのはジョージコンパウンドと呼ばれるスラム街で行われていたPHC（プライマリーヘルスケア）プロジェクトだ。ボランティア、という「余裕のある人達による、恵まれない人への協力」「インフラの整備」「物資の供給」といったイメージが先行しがちだった私にとって、PHCは衝撃的な活動だった。その活動でボランティアに携わっていたのはスラム街に住む、

CHW（コミュニティーヘルスワーカー）と呼ばれる低所得者達だったのである。彼らのプライドに満ち、生き生きとした活動ぶりを見て、これからの協力は物的な側面だけではなく、貧しい中で人間が失ってしまった尊敬やプライドの回復といった精神的なケアと地域住民参加型の援助が重要になってくると言うことを痛感した。CHWの活動や物資が不足する中で精一杯の援助活動をしている青年海外協力隊員の姿を通して「ボランティアとは何か」「働く喜びとは何か」について、生徒自身にもう一度考える時間と場を保障しようと、この実践を計画した。

■授業の構成

時限/テーマ/ねらい	方法・内容	使用教材
■事前 (朝の学習) ○ボランティアって何? ○生徒の意識をつかむ	ワークシートに従い「ボランティア」という言葉からイメージすることをイメージマップにまとめる。	ワークシート
■1時限 社会 ○切手から学ぼう1 ○アフリカへの関心を高める	一人1枚ずつ渡されたアフリカの切手を活用し、ワークシートに従い、切手に描かれた図柄の意味や各国のようすを調べる。	アフリカの切手 ワークシート
■2時限 社会 ○切手から学ぼう2 ○発表から学ぼう	班の中で調べたことを発表しあい、知識の共有化を図る。クラス全員の調査内容を読み、切手デザインの共通点を探し、学習活動を振り返る。	ワークシート 生徒の作品集
■3時限 道徳 ○風に立つライオン ○人はなぜボランティアするのだろう	さだまさしの曲「風に立つライオン」の主人公の生き方を通して、安定した生活を捨ててまでアフリカでのボランティアに駆り立てた原動力は何か考える。	さだまさしのCD ワークシート

4時限 学級活動

- ザンビアPHCプロジェクト
- ◎働く目的とは何か

地球家族や現地取材のVTRを活用、貧しい中であってもボランティアに協力するCHWの実態から働く目的とは何かを考える。

地球家族のVTR
(2000.4.9放送)
現地取材したVTR

5時限 道徳

- 青年海外協力隊員の活動

地球家族のVTRを視聴し、青年海外協力隊員の活動ぶりを知るとともに、ボランティアに携わる人々の心情を考える。

地球家族のVTR
(2001.7.22放送)
ワークシート

6時限 学級活動

- 自分にとってのボランティアとは

今までの学習を振り返って、「ボランティア」についてのイメージマップを作成し、事前のイメージマップと比較することを通して、自分にとってのボランティアとはなにか、考えをまとめる。

ワークシート

授業の詳細

事前(朝の学習) ボランティアって何?

～イメージマップを書いてみよう～

- ① 資料1を利用し、ボランティアについてイメージマップを書く。(約10分)
- ② 自分が書いたキーワードを教え、記録後、道徳ノートにファイリングしておく。

生徒の反応

「ゴミ拾い」「お年寄り」など身近で自分たちが実践しているボランティア活動がキーワードとしてあげられていた。「楽しい」と書く生徒もおり、ボランティアに対して好意的に見ている生徒が多いようだ。個数は少ない生徒で6個程度、多い生徒で25個だった。

1時限目 切手から学ぼう1

- ① 生徒へのおみやげとして購入したアフリカ諸国の切手を班ごとに配布する。班のメンバー一人一人が違う国の切手を受け取ることが出来るよう気を付けて切手を配布する。
- ② 班の中でじゃんけんなどをし、自分の気に入った切手を受け取る。資料2を配布し、所定の場所に切手を糊づけする。調べ学習の進め方を説明する。
- ③ 図書館に移動し、英語の辞書を活用して切手から国名を読みとる。
- ④ 書籍やインターネット、CD-ROMを活用して、切手に描かれた図柄の意味やその国の実情などに

ついて調べ学習を進める。

- ⑤ 調べが終わったら提出させ、全員分を印刷し、作品集として1冊にまとめる。終了しなかった生徒については放課後などを活用してまとめるよう助言する。

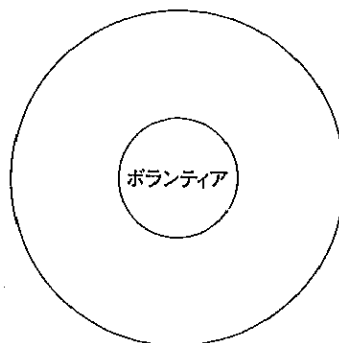
生徒の反応

あらかじめ司書教諭に協力を依頼しておいたのでアフリカに関する書籍類のとりまとめや調べ学習の支援などをして貰い、T-Tスタイルでスムーズに学習活動を進めることが出来た。またかつて広くアフリカ南部に存在していたローデシアの切手が各班に1枚くらいずつ入っており、生徒にとっては新しい発見が多かったようで夢中になって取り組んでいた。

実践

イメージマップを作ろう

★「ボランティア」という言葉からあなたがイメージすることは何ですか?



2時間目 切手から学ぼう2

- ① 班のメンバー同志で前時に調べたワークシートを見せ合い、調べた内容を発表する。
- ② 資料3のワークシートに従い、友人が調べた国を白地図上でマーキングする。
- ③ クラス全員のワークシートが掲載された作品集を配布し、熟読する。
- ④ 本時の発表を聞いたり、他の班の友人が調べた内容を読んで、アフリカの切手に共通する点を探す。その後、切手調べをした感想を書く。

生徒の反応

- ・1枚の切手にもその国のいろいろな情報が入っていることが分かった。
- ・アフリカの切手には宝石や鉱石の絵がたくさん描かれているので地下資源が豊富なのだと思った。
- ・ローデシアという国があったことを初めて知った。

3時間目 風に立つライオン

さだまさし氏の「感動の素」におさめられている「風に立つライオン」を活用した。この曲に登場する主人公はさだ氏の友人であり、ケニアに巡回医としてボランティアに旅立った実在の人物である。(現在は帰国し国内で医師として働く。) 曲の舞台がアフリカであること、ボランティアについて考えることができる題材であることからこの曲を選んだ。

資料2

<p>アフリカ地図1 国名がわかること</p> <p>*この国の切手かな？ 地図中に赤く色を塗るよ！</p>	<p>1. 国名 国 記号</p> <p>国名 ZIMBABWE 国記号 ZB</p> <p>人口 1,191万人 面積 390,700km² (OECD平均値) 主要言語 英語、シナ語、ンブウェ語 通貨単位 ズンバウェドル 国花 フレムリリー</p> <p>ジンバブエは鉱産物家としての意味その代表としてセカサニチレイ 宝石がのびている (たぶん) (紫水晶にはより方丈が産出) この石は AMETHYST 紫水晶</p>
	<p>ジンバブエは鉱産物家としての意味その代表としてセカサニチレイ 宝石がのびている (たぶん) (紫水晶にはより方丈が産出) この石は AMETHYST 紫水晶</p>

この時間は右記通り展開した。ワークシートについては普段道徳の時間に使用している、罫線の入ったノートのようなものを使用した。

生徒の反応

- ・A・Bどちらの道を選択するか、では圧倒的にAの勤務医の道を選ぶという男子生徒が多かった。女子ではBを選ぶようアドバイスする、帰国するまで待っているという生徒が多かった。学級活動における職業調べや三者相談などで将来の進路を真剣に考えるようになって来たせいか、活発に意見が出された。曲の前奏でアフリカ風のドラム演奏が流れるため、初めはクスクスと笑いが漏れていたが、曲が進むにつれ真剣に聴く態度が見られた。人生の岐路・結婚という、中学生にとってまだ実感の湧かない題材を扱ったが、道徳ノートの記述を読むと彼らの発達段階なりの感想が書かれていた。
- ・「自分の力」を出し切って一人でも多くの病人を救ってあげたいという気持ちでボランティアしていたのだと思う。
- ・家族や婚約者を日本に残してきたことを少し後悔しているかも知れないけど、シュバイツアーのようになりたいという夢はその後悔より大きいと思った。夢の力はすごいと思った。僕もそんな夢を持ちたいと思う。

資料3

学習をふりかえて

【 】 国名ではこんな国について調べました！

アフリカの切手で、たくさん出てきたデザインは？

デザイン	予想される理由
------	---------

感じたこと

3時限目 「風に立つライオン」 授業展開

段階	学習活動 (○発問)	展開上の留意点
導入	<p>(1) シュバイツアーについての解説を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医師 ・ 大学教授、神職の地位と名誉をなげうって、ボランティアとしてコンゴ地方の医療活動にあたる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 知っている生徒を指名する。 ・ 簡単な解説にとどめる。
	<p>(2) 資料についての解説を聞く。</p> <p>○ 幼い頃シュバイツアーに憧れて医師になった青年の前に分岐点やってくる。自分ならどちらをとるか。</p> <p>A 将来を約束された大学病院での勤務医としての道 (婚約者との結婚)</p> <p>B ボランティア巡回医としてケニアの人々を助ける道 (結婚は延期)</p> <p>(3) 結局、ケニア行きを決断した青年の元に届いた手紙について説明を聞いた後でCDを聴く。(約8分間)</p> <p>○ 日本に置いてきた婚約者の手紙にはどんなことが書いてあったのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 結婚が決まったと言うこと <p>○ 風に向かって立つライオン、とはどういう生き方のことか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ライオン……孤独、強い、負けない ・ 風に向かって立つ……逆境に負けない、困難に立ち向かう、流されない 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 男子は青年になったつもりでどう決断するか、女子には婚約者になったつもりで青年にどんな声をかけるか、その心情を考えさせる。 ・ 挙手で自分の考えを表明させた後で、なぜそのように思ったのか自由に意見を発表させる。 ・ ケニアの情景が思い描けるような写真を掲示する。…ビクトリア湖、キリマンジャロ、サバンナの動物たち、など。 ・ 歌詞を印刷して渡す。
展開	<p>(4) 主人公の生き方を考える。</p> <p>○ 安定した将来をなげうってでも、ボランティアに行ったのはなぜだろう。</p> <p>○ この青年は自分の決断を後悔しているだろうか。</p> <p>○ 彼はどんな気持ちでボランティアをしているのだろうか。彼を支えているのは一体なんだろう。</p> <p>○ この青年の生き方に触れてどう思ったか。今日の感想をこころノートに書いてみよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主人公の気持ちに添って考えさせ、道徳ノートに自分の考えを書かせる。 ・ 感想については学級通信として生徒に返す。
価値の内省化		

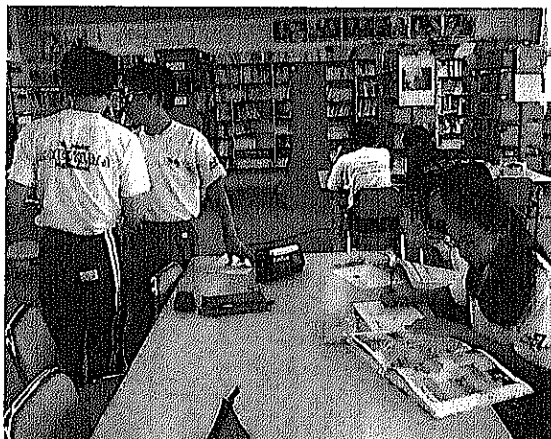


写真1 図書室での調べ学習

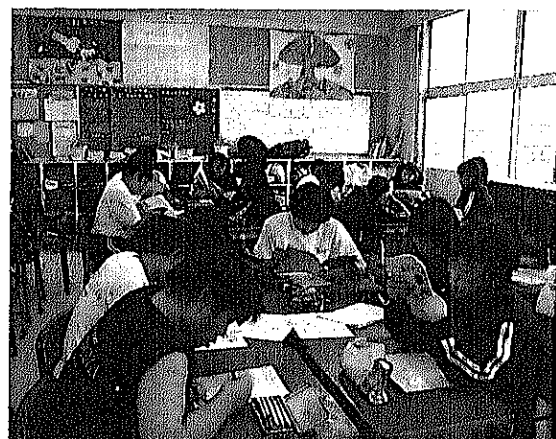


写真2 班ごとの発表会

- ・ケニアの人達が喜んでくれるからがんばれるのだと思う。後悔よりうれしいと思う。
- ・ボランティアに出かけたのは、その生き方に他では見つかからないモノがあるって感じたからだと思う。

4時限目 ザンビアPHCプロジェクト

前時までに高まってきたアフリカやボランティアに対する関心を生かして、ザンビアで取材してきたビデオ（同行の太田先生の撮影による）と、2000年4月9日に放映された地球家族「地域に根ざした援助を〜ザンビア・プライマリヘルスケアプロジェクト〜」（JICAよりレンタル）を組み合わせた授業展開とした。展開の実際は以下による。



写真3 乳幼児の体重測定をするジョージ地区のCHW（コミュニティヘルスワーカー）たち。

4時限目 「ザンビアPHCプロジェクト」 授業展開

段階	学習活動（◎発問）	展開上の留意点
導入	(1) ザンビアについての解説を聞く。 ・ザンビアの国家予算について……貧しい国	・地図を用いる。切手調査でザンビアを担当した生徒に位置を聞く。 ・簡単なクイズなどをする。
	(2) ジョージコンパウンドとCHWの説明を聞く。 ・特に貧しい地区。住民17万3千人～郡山市の半分 ・医師の数は1人～非常に混み合う病院→CHWの活躍	
展	(3) CHWの活動について知る。 ○ジョージコンパウンドでのCHWがどんな仕事をしているのか、ビデオで観察してみよう。 ○ビデオからどんなことに気がきましたか。	・現地で取材した8ミリビデオを音声なしで観察させ、気付いたことを発表させる。
	(4) 「地球家族」のVTRを利用しCHWの活動や彼らへのインタビューの様子を視聴する。 ○CHWは、どのような人達だと思いますか。	・VTRでは活動の様子やインタビューの部分を15分程度に編集する。 ・予想を自由に発言させた後で、実は貧しいジョージコンパウンドの住人で、ボランティアのため、無償で働いていることを明かす。 ・CHWへのインタビューから、彼らが「人の役に立てる喜び」を感じていることに気付かせる。 ・住民がCHWをどう見ているかについて触れ、彼らがプライドを持ってボランティア活動に携わっていることに目を向けさせる。
閉	○生活が苦しいにもかかわらず、ボランティアで働いているのはなぜだろう。こころノートに書いてみよう。	
	(5) 人はなぜ働くのか考える。 ○人間の働く目的って一体何だろう。今日の感想を含めてこころノートに書いてみよう。	・道徳ノートに自分の考えを書かせる。 ・感想については学級通信として生徒に返す。

コミュニティーヘルスワーカー（CHW）とはザンビアのジョージ地区で初歩的な衛生保健活動のボランティアに携わる人々である。支給されたブルーの制服に身を包み、顔写真入りのIDカードを胸に着けたその姿は、首都ルサカでも最も貧しいと言われるジョージ地区にあって一際目立っていた。現地取材のVTRには彼らが乳幼児の体重を測定、グラフ化し、母親への栄養指導を行っている様子が映し出されている。手際よくしかも堂々と仕事を進める彼らの姿は、高い教育を受けた人々のように映るが、実際はジョージ地区のコンパウンドと呼ばれる粗末な家に住む貧しい人々なのである。生活が苦しいにもかかわらず、全く給料がもらえないCHWの活動に携わろうとするのはなぜなのか、について考えさせることにより、働く目的とは何なのかについて生徒の目を向けさせたかった。

生徒の反応/感想ノートより

- ・自分も給料がなくて生活が苦しいけど、人のために役に立ちたいと思う。
- ・以前、CHWに教えてもらってうれしかったから、自分も人にわかりやすく教えたり、助けたいと思うんじゃないかな。
- ・自分の住んでいる地区だからきれいになって欲しい、人の役に少しでも立ちたい、という思いがあるのではないかな。
- ・自分の子ども達を守るためなら貧乏で給料がなくてもがんばれるし、この仕事をやっているとうれしいのだと思う。

5時限目 青年海外協力隊の活動

- ① 社会科での既習事項を振り返り、ODA・JICA・青年海外協力隊について確認をする。
- ② 2001年7月22日放映の地球家族「草の根レベルの活動を～ザンビアで活躍する青年海外協力隊～」(JICAよりレンタル)を視聴する。
- ③ 協力隊員はどんな表情で活動に当たっていたか、気付いたことを発表する。
- ④ 本時の感想を道徳ノートに記入する。
- ⑤ 数人指名して発表し、感想を共有する。

生徒の反応/感想ノートより

- ・電気や水道のことで辛いこともあるみたいだけど、日本にはない雄大な土地や空とかがあって、行って損をしたという日本人がいなかったから、みんなザンビアの子ども達とコミュニケーションをとるのに満足しているんだなと思った。
- ・現地の人々がすごく喜んで楽しそうだった。教えているJICAの人々も喜んでもらえるように勉強しているのがすごいと思った。
- ・ザンビアの人が餅つきをしたり日本の歌を歌ったりしていたので、人は国が違っても分かり合えると思った。
- ・遠いザンビアで、日本の文化に喜んでくれているのがうれしかった。最後に日本語の歌をみんなで歌っていて、言葉が通じないのに分かり合えてすごいと思った。

6時限目 自分にとっての「ボランティア」とは

- ① 本時までの5時間の学習を振り返る。
- ② 振り返りをもとに、「ボランティア」についてのイメージマップを作成する。作成を終えたらキーワードの数を数える。この際、最初に作成したイメージマップと区別しやすいように、用紙の色を変えた。
- ③ 学習前と学習後に作成した2枚のイメージマップを資料4のように糊付けする。
- ④ 2枚のイメージマップを比較し、この学習活動を通して自分の考えがどう変わったか、ワークシートに記入する。記入後、数人を指名して発表する。
- ⑤ 自分にとっての「ボランティア」とは何か、今までの活動を振り返ってワークシートにまとめる。感想については学級通信を通して生徒に返す。

生徒の反応

- ・ボランティアする人は「役に立ちたい」「よろこばれたい」と思っていることが分かった。もっとボランティアのことを考えなくちゃいけないと思った。
- ・地域での活動や学校でやるのも、JICA等の団体でやるのもボランティアで、一口にボランティアと言っても色々な形があると分かった。JICAのことは今まで全然知らなかった。もっといろんなことを知りたい。
- ・誰かが喜んでくれる、誰かに役立つ……そういうことがボランティアだと思う。
- ・人を思いやる気持ちや優しさがボランティアにつながるんだと思った。人を助けたいという気持ちがあれば

Let's Think about International Cooperation through English

— 「英語で国際協力について考えてみよう」 —



寺島清一

TERASHIMA SEIICHI

茨城県つくば市立谷田部東中学校／英語

実践教科／英語

時間数／5時間

対象生徒・学年／中学校2年

対象人数／195名

カリキュラム案

■実践の目的

今まで学習してきた英語を駆使し、

- ① 開発途上国とそこで活躍する青年海外協力隊への理解を深める。

- ② 自分ができる国際協力・国際交流について意見を述べ合い具現化する。
- ③ 国際交流という英語の実践的な使用場面へと関連付け、英語学習の意欲を高める。

■授業の構成（国際理解の観点から）

時間 / テーマ / ねらい	方法 / 内容	使用教材
1時間 ○クイズ「この国はどこ」 ○外国に対する思い込みに気づかせ、特に開発途上国に関心を持たせる	(1)国土の形・写真・音楽から国名を推測させる。 (2)日本との相違点・類似点を書き出させ、発表させる。	(1)写真 CD (2)ワークシート (資料1)
2時間 ○ザンビアの中学生 ○ザンビアの中学生の様子から見える開発途上国について情報を与え考えさせる	ザンビアの中学校生活を撮影したビデオを鑑賞させ、思ったこと感じたことを自由に書かせ発表させる。	ビデオ（ザンビアで収録したもの）
3時間 ○世界各地で活躍するJOCV ○青年海外協力隊の存在とその意義を理解し、国際協力のあり方を考えさせる	(1)『地球家族』のビデオ等を通して、青年海外協力隊について情報を与える。 (2)青年海外協力隊になれたらどんな職種を選んでどんな活動をしたいかを考えることによって国際協力を身近なものとする。	(1)ビデオ『地球家族』 パネル・資料 (2)青年海外協力隊募集要項 (資料2)
4時間 ○「ナブの願い」をかなえよう (wants-able法) ○自分自身の視点から、国際協力について考えさせ、具体的に行動できる足がかりとさせる	(1)資料「ナブの生活」から、開発途上国の村落地帯の現状の一端を理解させる。 (2)ナブの願いを叶えるために自分が援助したいことを書き出し、順位付けをしてグループで話し合わせる。 (3)援助したいことの中から「自分ができるところ」を書き出し発表させる。	(1)資料「ナブの生活」 パネル (資料3) (2)ワークシート (資料4)

6時限

- クリスマスカードを書こう
- 自分たちができることの一つに国際交流があることに気づかせ、気持ちを込めたカードを書かせる

- (1)孤児院で暮らす孤児たちの様子をビデオで見せ、そこで奉仕するシスターのメッセージを伝える。
- (2)孤児たちを勇気付けるクリスマスカードを書かせる。

- (1)ビデオ (ザンビアで収録したもの)
- (2)クリスマスカード (資料5)

授業の詳細

1時限目 クイズ「この国はどこ？」

教科書から離れて学習するこの特別プログラムに、興味を持って取り組めるように班対抗のクイズから導入した。また、2学期の復習もかねることとして今まで学習した文法、句型、単語を駆使しての活動になるように工夫した。英語を使って答えるとポイントが5倍になるルールに設定したこともあって、ほとんどの生徒が英語使用を試み楽しんでいった。

◎クイズ

(1) 国土の地形から

画用紙に描いた国土の絵を、地図帳で見かけるのと違う方向から展示したり、縮尺の度合いを変えたりして出題した。

(2) 音楽から

イタリア・台湾・ザンビアなどで購入したCDやインターネットラジオから集めた各国の曲（最近の流行曲や民俗音楽）をもとに出題した。

(3) 写真から

JICAから送っていただいたフォトランゲージ集を使って出題した。



写真1 クイズ「この国はどこ？」で使用
タカマド小学校での授業風景（算数）

クイズで使用した英語

教師側 What's the name of this country?
Where does this musician come from?
Where was this picture taken?
I'll give you some hints.
This country is going to join World Cup Soccer next year.
It is in Europe.
It is famous for pasta.

生徒側 I think it's _____.
I can't figure out.
I have no idea.
Give me more hints, please. など

生徒の反応

クイズには間違いを恐れず、積極的に発表する生徒が多かった。国土の形からの問題では、地図帳を上下左右違った角度から眺めたり、思いつきで答えたりして班対抗でかなりヒートアップした活動となった。音楽・写真からの問題では、個々の生徒が今までの知識・体験を駆使して問題に取り組んだ。歌われている言葉が何語か考えたり、写真に写る雑誌の文字や人の容姿・服装から答えを導こうとしたり、今までだったら何気なく見過ごしていたものを様々な角度から注意深く理解しようとしていた。クイズが終了すると、「もっとやりたい」「楽しかった」「今度は私たちに作らせて」という声が多く聞こえた。

◎クイズの振り返り

写真を見て国名を答えるクイズの中から「ザンビア」を取り上げ、問題で使用したものと同じ写真を班に1枚ずつ配布した。その写真からうかがえる日本との相違点・類似点をワークシートに書き出させた。

使用を心がけさせた文型

There is (are) ~ in this picture.
I can see (find) ~ in this picture.



Special program (Review)
Let's think of international cooperation in English!
 Class No. Name _____

① I think ~ () を見るとは
 Q1 What country is that?
 I think it's

1		6	
2		7	
3		8	
4		9	
5		10	

② There is (are) ~ . 絵の中を見つけてよ
 I can see ~

Q2 What's the difference from Japan?
 the same as Japan?

③ The Difference from Japan

1	
2	
3	

④

1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	

Special program (Review)
Let's think of international cooperation in English!
 Class 3 No.16 Name _____

① I think ~ () を見るとは
 Q1 What country is that?
 I think it's

1	New Zealand	6	Italy
2	Turkey	7	Zambia
3	Afghanistan	8	Senegal
4	Iceland	9	France
5	Philippine	10	China

I know it's
 知っています

② There is (are) ~ . 絵の中を見つけてよ
 I can see ~

Q2 What's the difference from Japan?
 the same as Japan?

③ The Difference from Japan

1	文化の違い
2	気候の違い
3	食文化の違い

④

1	文化の違い
2	気候の違い
3	食文化の違い
4	言語の違い
5	習慣の違い
6	宗教の違い
7	政治の違い

Special program (Review)
Let's think of international cooperation in English!
 Class 3 No.11 Name _____

① I think ~ () を見るとは
 Q1 What country is that?
 I think it's

1	New Zealand	6	Italy
2	Turkey	7	Zambia
3	Afghanistan	8	Senegal
4	Iceland	9	France
5	Philippine	10	China

② There is (are) ~ . 絵の中を見つけてよ
 I can see ~

Q2 What's the difference from Japan?
 the same as Japan?

③ The Difference from Japan

1	文化の違い
2	気候の違い
3	食文化の違い

④

1	文化の違い
2	気候の違い
3	食文化の違い
4	言語の違い
5	習慣の違い
6	宗教の違い
7	政治の違い

生徒の反応

気づいて発表した内容がクイズの得点に加算されるルールを発表したところ、これも活発な活動となった。班内で意見を出し合い相違点・類似点をまとめ、競い合うように発表した。授業後の感想からは「一枚の写真をこれほどじっくり眺めたことは初めてだったけど、いろんなことが読み取れて面白かった。」「[教室に机がある]」「教科書を使う」など、当たり前なことだと思っていたけど、何か新鮮に感じられた。」など、新鮮な印象を受けたとの声が多く聞こえた。また、「もっと他の写真も見てみたい。」「よくあんな環境で暮らせるね。」「日本に生まれてよかった。」「ザンビア以外にも同じような国はあるのかな。」という感想もあり、開発途上国への関心が高まる様子を感じられた。

2時限目 ザンビアの中学生

開発途上国への関心をさらに高めるために、ザンビア研修中に訪問した学校の様子を撮影したビデオ・写真を見せた。同世代の中学生が何を楽しんでいるのか、何を必要としているのかを、自分たちの様子と対比させながら鑑賞させた。思ったことを下の文型を使ってノートに書かせた。

使用を心がけさせた文型

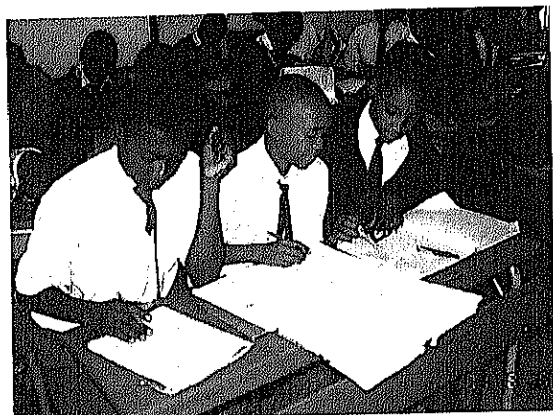
- They enjoy (play) ~ .
- They look happy (sad, excited, etc.)
- They need (want) ~ .
- I enjoy (play) ~ .
- I am happy (sad, excited, etc.)
- I need (want) ~ .

生徒の反応

中学生が何を楽しみにしているのかを見つけ出そうとビデオ・写真を食い入るように見ていた。タオルを巻いて作ったボールでサッカーをする姿（ほとんどダイレクトパスでつないでいる姿）を見て「すごい」「うまい」と驚嘆の声を上げたり、スケッチブックに描かれたデッサンの本格的な仕上がりに見て、イメージしていた絵とは違うことに驚いたりしていた。また、教師に対する礼儀の良さにも新鮮な驚きを感じたようである。



写真2-1 ザンビアの子どもたち
カトウバ地区の小学生



資料2-2 ザンビアの中学生（ムナリ中学校にて）
1冊の教科書を3人で使う様子。授業態度はまじめそのもの。

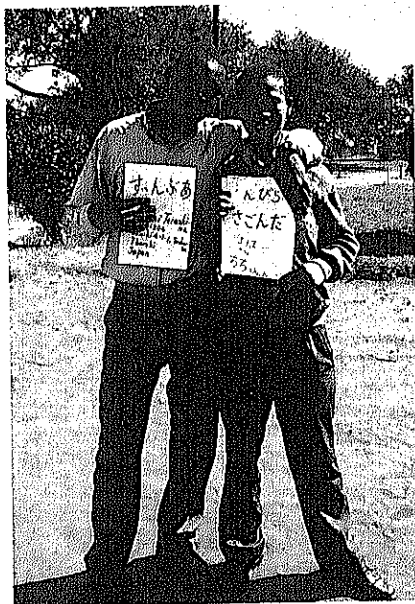


写真2-3 ザンビアの中学生
カフェ中学校で、日本語・日本文化の授業を行った後での様子
自分の名前をひらがなで表記して喜ぶ生徒たち

以下は、生徒の英語で書いた感想である。

They enjoy soccer very much. They play soccer better than I. They look happy. I think they need a new ball. I was surprised at the pictures. They were so good.

I like to talk with my friends. They also enjoy talking. They look good to each other. I am always rude to teachers. But they are all nice to teachers. They often said, "Yes, Sir." "Thank you, Sir."

3時限目 世界各地で活躍する青年海外協力隊

国際協力の現場で活躍する日本人の姿として、青年海外協力隊をJICAのビデオやパネル、現地で取材したことをもとにして生徒に紹介した。導入とし

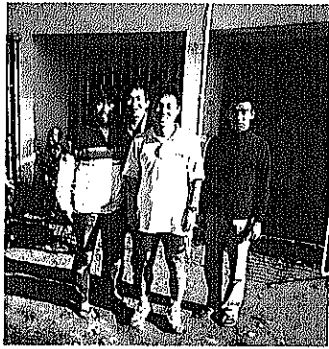


写真3 協力隊の家で
寮を訪問して様々な分野・現場での生活・仕事の様子についてインタビューをした後に撮影

て7月に放映された『地球家族』（草の根レベルの活動を～ザンビアで活躍する青年海外協力隊～）を見せた。研修の際に実際に話が聞けた人たちも数人登場しており、コメントを加えながら進めた。

青年海外協力隊について、そのねらい・派遣されてからの実際の生活・仕事をしていてつらいこと・嬉しいこと等についてJICAの資料（資料2）を配布し、現地で取材したことを加えて説明した。

最後に青年海外協力隊の応募要件を使って、「もしこの青年海外協力隊に応募するなら、どの職種で応募して、どんな活動をしてみたいか」について考えさせ、英語でノートに書かせた。英語で書くことで、かえって恥ずかしさを感じずに書き発表できた。

使用を心がけさせた文型

I want to be a ~ .
I want to do ~ .

職業に関する語句

- mechanic 機械技師
- beautician 美容師
- sanitarian 公衆衛生家
- nursery teacher 保育
- computer engineer コンピュータ関連技師
- その他（和英辞典で調べる）

資料2

<h4>青年海外協力隊</h4> <p>1. 目的 国際協力に貢献し、国際理解を促進し、国際社会の発展に寄与すること。</p> <p>2. 対象 18歳以上25歳未満の日本人青年男女。</p> <p>3. 募集時期 毎年10月～11月の間に募集要項が発表される。</p> <p>4. 募集地域 途上国及び途上地域。</p> <p>5. 募集職種 農業・林業・漁業・畜産・工業・建設・観光・教育・保健・福祉・文化・スポーツ・その他。</p> <p>6. 募集要項 募集要項はJICAのホームページに掲載されている。</p> <p>7. 応募方法 JICAのホームページから応募する。</p> <p>8. 応募書類 履歴書、写真、学歴証明書、成績証明書、健康診断書、最近の2寸3寸カラー写真2枚。</p> <p>9. 面接 JICAの東京本部で面接が行われる。</p> <p>10. 選考 面接の結果に基づき、最終選考が行われる。</p> <p>11. 派遣先 選考合格者は、JICAの海外協力隊として派遣される。</p> <p>12. 派遣期間 派遣期間は1年～2年である。</p> <p>13. 派遣費用 派遣費用はJICAが負担する。</p> <p>14. 派遣先での生活 派遣先では、現地の人々と生活し、現地の人々と交流する。</p> <p>15. 派遣先での仕事 派遣先では、現地の人々と協力して仕事をし、現地の人々と協力して生活する。</p> <p>16. 派遣先での生活と仕事の様子 派遣先では、現地の人々と生活し、現地の人々と交流する。また、現地の人々と協力して仕事をし、現地の人々と協力して生活する。</p>	<h4>日系社会青年ボランティア</h4> <p>1. 目的 国際協力に貢献し、国際理解を促進し、国際社会の発展に寄与すること。</p> <p>2. 対象 18歳以上25歳未満の日本人青年男女。</p> <p>3. 募集時期 毎年10月～11月の間に募集要項が発表される。</p> <p>4. 募集地域 途上国及び途上地域。</p> <p>5. 募集職種 農業・林業・漁業・畜産・工業・建設・観光・教育・保健・福祉・文化・スポーツ・その他。</p> <p>6. 募集要項 募集要項はJICAのホームページに掲載されている。</p> <p>7. 応募方法 JICAのホームページから応募する。</p> <p>8. 応募書類 履歴書、写真、学歴証明書、成績証明書、健康診断書、最近の2寸3寸カラー写真2枚。</p> <p>9. 面接 JICAの東京本部で面接が行われる。</p> <p>10. 選考 面接の結果に基づき、最終選考が行われる。</p> <p>11. 派遣先 選考合格者は、JICAの海外協力隊として派遣される。</p> <p>12. 派遣期間 派遣期間は1年～2年である。</p> <p>13. 派遣費用 派遣費用はJICAが負担する。</p> <p>14. 派遣先での生活 派遣先では、現地の人々と生活し、現地の人々と交流する。</p> <p>15. 派遣先での仕事 派遣先では、現地の人々と協力して仕事をし、現地の人々と協力して生活する。</p> <p>16. 派遣先での生活と仕事の様子 派遣先では、現地の人々と生活し、現地の人々と交流する。また、現地の人々と協力して仕事をし、現地の人々と協力して生活する。</p>	<h4>シニア海外ボランティア</h4> <p>1. 目的 国際協力に貢献し、国際理解を促進し、国際社会の発展に寄与すること。</p> <p>2. 対象 35歳以上の日本人シニア。</p> <p>3. 募集時期 毎年10月～11月の間に募集要項が発表される。</p> <p>4. 募集地域 途上国及び途上地域。</p> <p>5. 募集職種 農業・林業・漁業・畜産・工業・建設・観光・教育・保健・福祉・文化・スポーツ・その他。</p> <p>6. 募集要項 募集要項はJICAのホームページに掲載されている。</p> <p>7. 応募方法 JICAのホームページから応募する。</p> <p>8. 応募書類 履歴書、写真、学歴証明書、成績証明書、健康診断書、最近の2寸3寸カラー写真2枚。</p> <p>9. 面接 JICAの東京本部で面接が行われる。</p> <p>10. 選考 面接の結果に基づき、最終選考が行われる。</p> <p>11. 派遣先 選考合格者は、JICAの海外協力隊として派遣される。</p> <p>12. 派遣期間 派遣期間は1年～2年である。</p> <p>13. 派遣費用 派遣費用はJICAが負担する。</p> <p>14. 派遣先での生活 派遣先では、現地の人々と生活し、現地の人々と交流する。</p> <p>15. 派遣先での仕事 派遣先では、現地の人々と協力して仕事をし、現地の人々と協力して生活する。</p> <p>16. 派遣先での生活と仕事の様子 派遣先では、現地の人々と生活し、現地の人々と交流する。また、現地の人々と協力して仕事をし、現地の人々と協力して生活する。</p>	<h4>日系社会シニアボランティア</h4> <p>1. 目的 国際協力に貢献し、国際理解を促進し、国際社会の発展に寄与すること。</p> <p>2. 対象 35歳以上の日本人シニア。</p> <p>3. 募集時期 毎年10月～11月の間に募集要項が発表される。</p> <p>4. 募集地域 途上国及び途上地域。</p> <p>5. 募集職種 農業・林業・漁業・畜産・工業・建設・観光・教育・保健・福祉・文化・スポーツ・その他。</p> <p>6. 募集要項 募集要項はJICAのホームページに掲載されている。</p> <p>7. 応募方法 JICAのホームページから応募する。</p> <p>8. 応募書類 履歴書、写真、学歴証明書、成績証明書、健康診断書、最近の2寸3寸カラー写真2枚。</p> <p>9. 面接 JICAの東京本部で面接が行われる。</p> <p>10. 選考 面接の結果に基づき、最終選考が行われる。</p> <p>11. 派遣先 選考合格者は、JICAの海外協力隊として派遣される。</p> <p>12. 派遣期間 派遣期間は1年～2年である。</p> <p>13. 派遣費用 派遣費用はJICAが負担する。</p> <p>14. 派遣先での生活 派遣先では、現地の人々と生活し、現地の人々と交流する。</p> <p>15. 派遣先での仕事 派遣先では、現地の人々と協力して仕事をし、現地の人々と協力して生活する。</p> <p>16. 派遣先での生活と仕事の様子 派遣先では、現地の人々と生活し、現地の人々と交流する。また、現地の人々と協力して仕事をし、現地の人々と協力して生活する。</p>	<h3>募集!! 国際ボランティア</h3> <p>あなたの情熱 応援します。</p> <p>JICA JAPAN</p> <p>国際協力事業団 青年海外協力隊事務局</p> <p>Tel: 03-5283-7281 FAX: 03-5283-7282 http://www.jica.go.jp</p>
---	--	---	---	--

生徒の反応

前時までの流れもあるので「地球家族」・私が取材編集したビデオともに真剣に鑑賞した。応募要項自体は昨年の総合的な学習の時間で調べたこともあり、スムーズに英語で表現する活動を展開できた。自分の興味ある分野を探し出し、和英辞典を片手に何とか英語にしようと努力していた。いくつか紹介すると、

I want to be an animal doctor. I want to help farmers.

I want to be a nurse. I want to help sick children.

I want to be a teacher. I want to teach karate or judo.

4時限目 「ナブの願い」をかなえよう

(wants-able法を使って)

国際協力についてさらに身近に感じさせるために「ナブの生活」(資料3)を配布し読ませた。これは、セネガルの村落で暮らすある少女の生活実態について手紙風にかかれたものである。ザンビアの村落で取材した内容とほぼ同様の内容が描かれているので採用した。セネガルの様子については、JICA筑波センターからパネルを借用して掲示した。

「ナブの願い」は学校に通いたいことである。それを可能にするために、「何が必要か、そして何をしてあげたいか」を書き出させた。時間内に思いつくだけすべて

書き出させ、その結果をグループ内で紹介しあい班内で大切だと思われる順にランク付けを行わせた。

授業のまとめとして、最初に書き出した「何が必要か、そして何をしてあげたいか」一つ一つについて、今の自分(近い将来の自分)は「何ができるのか」を考えさせ記述させた。

この授業では、実際には英語使用の場面が作れずに終わってしまったが、時間的に可能であれば以下の英語表現を使わせることも可能であったと思う。

They need ~. I want to do ~.

I can ~. I will be able to do ~.



写真4 ザンビアの村落での生活
カトウバ村の長の家の中で主食であるシーマを食べている様子

資料3 ナブの生活

私の名前はナブ。15才の女の子です。セネガル共和国のティエス州のティエナバと呼ばれる人口500人の小さな村に、両親と祖母そして6人の兄弟と暮らしています。家の仕事は農業で、トウモロコシや落花生・野菜等を栽培しています。農業だけでは家計のやりくりがつかないので、昨年からは父は村から140キロ離れた首都ダカールへ出稼ぎに出ています。道路工事や建設現場での仕事は、農業よりずっと収入が良いのだそうです。父が家へ帰って来るのは、一年のうちたったの3回。トウモロコシの収穫期、そしてイスラム教の大切なお祭りの時だけです。

さて、もう少し私のことをお話ししましょう。

私は畑で働く母に代わって、家事のすべてを任されています。毎朝5時に起きて、まず村の中央にある共同井戸へ水

汲みに出かけます。10リットルの桶にみなみ水を汲み、1時間かけて家と井戸を7往復します。10才の妹アミも手伝ってくれるのですが、これがなかなかの重労働で一番つらい仕事です。それから、簡単な朝食を作り、日中は弟や妹の面倒を見ながら洗濯・野菜畑の水やり・家の掃除・めんどりや牛の世話・薪集めなどをします。お昼と夕飯は、祖母と私の二人で準備します。薪で煮炊きするので、時間はかかるし煙で目がチクチク痛みますが、カマドの前での料理の時間は、ゆっくり祖母とおしゃべりが出来る楽しいひとときです。夕方、妹や弟の体を洗ってあげた後に、一家そろってランプの明りの元で夕食となります。村にはまだ電気が通っていないのでランプとろうそくが光源で、ランプのホヤみがきは弟ジンの役目です。私は翌日の支度を済ませた後、夜9時半には眠ります。

そうそう、10才の時に2ヵ月間だけ小学校で勉強しました。小学校は義務教育だけど先生が少ないため、学校は村から10キロ離れた町にしかありません。町まで乗合いバスが運行しているのですが、運賃が高いので私は毎日歩いて通っていました。それに学費は無料でも、制服や文房具は自分たちで買い揃えなければならないんです。家ではとてもそんな余裕はありません。それに教科書はクラスに一冊で、授業の時だけしか見ることが出来ないんですよ。わたしは、数の数え方を習ったところで学校へは行かなくなりました。家の仕事もあったし、何よりも父が「女の子は学校へなぞ行かなくてもいい。」と言っているのです。本当はもっと勉強して、本が読めたり自分の名前が書けるようになりたいのだけど…。

出典：(社)青年海外協力協会

生徒の反応

「何が必要か、そして何をしてあげたいか」については、自分の知る限りの知識を生かして書き出した。ユニセフの援助活動とかODAの資金援助はもとより、「動物生態マップを作る」「教師をたくさん派遣する」「井戸を掘る」など前時の協力隊の活動のビデオを参考にした意見や「励ましの言葉を送る」「日本の歌を教える」など今後の交流活動につながるような意見を書く生徒もいた。

「自分にできること」については、内容によって「青年海外協力隊になる」「今の勉強をがんばる」とか将来を見据えた意見を書いたり、「募金活動に参加する」「手紙を書く」「文房具を送る」とか、「今の自分にはできない」と書いたりする項目もあった。

授業後の感想

「国際協力が身近なものに感じられた」「自分にもできる協力が見つかってうれしい」「みんなと壮大なプロジェクトを考えているようで楽しかった」など自分の視点で国際協力というものを感じることができたと書いている生徒が多かった。また、「ナブさんのような人たちと友達になりたい」「文通は可能なのかな」など交流に意欲的な生徒がいたり、「できれば、アメリカやイタリア、韓国など他の国の中学生とも話し合っってナブさんの夢をかなえられるように知恵を出し合っしていきたい」など頼もしい意見を書いたりする生徒もいた。「将来、自分がやりたいことが見えてきた」という感想まであり、英語の時間にこの題材を取り扱って良かったと確信がもてた。

5時限目 クリスマスカードを書こう

導入として、ザンビアのカシシ孤児院にて撮影したビデオを放送した。ポーランド人のシスターが英語で説明してくれているが、必要のない限り余計なコメントはせずに、そのまま英語のリスニング教材として扱った。ただし、この子供たちが各国から送られてくるカードや手紙に励まされていること、その国々の歌を歌うことで感謝の気持ちを伝えようとしていることについては映像を止めて説明した。実際に、孤児たちが日本の歌「チューリップ」「幸せなら手をたたこう」を日本語で歌って私たちを迎え



写真5 ポーランド人のシスター（カシシ孤児院）
献身的に奉仕するシスター。一人一人にかけけるまなざし。言葉には、愛情があふれている。



写真6 愛情に飢える孤児（カシシ孤児院）
見知らぬ「私」にもちゅうちょなく抱きついてくる。

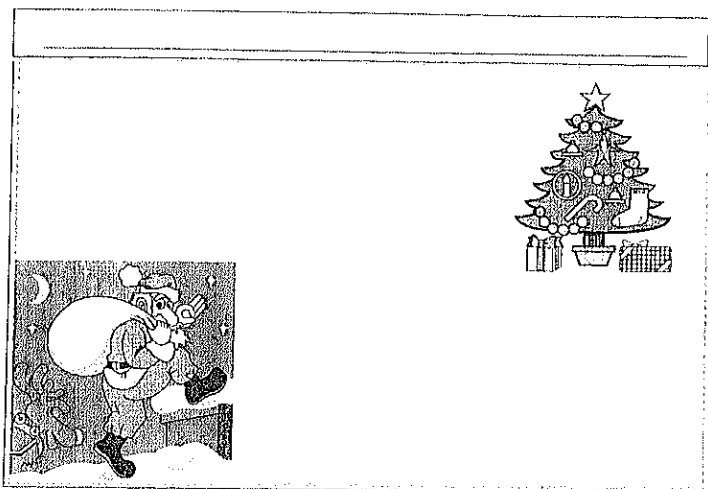


写真7 カシシ孤児院にて
日本語の歌で歓迎してくれた孤児たち

てくれた場面では、生徒たちもその純真な歌声・姿勢に心打たれたようであった。

前時からの流れもあり、自然と「あの子供たちに励ましのカードを送りたい」という声が高まり、時期的には間に合わないもののクリスマスカードを書

資料6



Wishing you a merry Christmas.
 Christmas
 is a time
 for sharing
 Good tidings

Dear Friends
 Merry Christmas
 Here's hoping
 Santa Claus is
 good to you !!
 Good tidings From Japan

Wishing you a
 Merry Christmas!

I'm enjoying this
 Christmas season.
 Joy to wish you on this holiday
 I hope your next year will be just
 wonderful to you.

Best wishes
 to the Merry Season

Hello,
 Merry Christmas!
 How about your Christmas tree?
 I think it must be very beautiful.
 You must get many presents on Christmas
 as Eve from Santa. But please don't
 forget Santa's snack!
 Greetings from Japan.
 Kyo Tao

こうという活動に発展した。

書く対象がはっきりしているおかげか、昨年度に書いたものより、心がこもった丁寧な仕上がりになっている生徒が多かった。

英語使用に関しては、クリスマスカードでよく使われる表現集や英語のクリスマスソングの歌詞を参考にして書かせた。

生徒の反応

実際に「よくできた作品・希望する作品についてはこの孤児院に送ります」と発表したこともあり、生徒たちは実によく取り組んだ。家に持ち帰り、きれいに仕上げてくる生徒も数多く見られた。

授業後の感想

「何か良く分からないけれど、あのビデオには感動した。何かしてあげたいという気持ちが押さえきれなかった。こんなカードでも役に立てればうれしいです。」

「あの歌声・瞳には感動した。『孤児である』ことがどれくらい悲しいことなのか実感としてわから

ないが、とにかく一生懸命生きている。英語はどう書けばよく分からなかったけど、あの子供たちに幸せになってもらいたいと本気で思った。」

◎成果と課題

授業の生徒たちの取り組み・感想から観察すると、今まで学習してきた英語を使って、「国際協力」について意見を書き発表し合えた充実感（達成感）や、将来国際ボランティアに参加できるかも知れないという自己発見ができて、英語学習への意欲が高まったものと考えられる。「最近の英語の授業は道徳みたいだけど、先生、何か面白いね。3学期もザンビアの生徒たちとの交流につながるようなことをやっていこうよ。」という趣旨のことを話してくる生徒が多く出てきた。私個人としては、国際理解を意図した授業が浸透している現われだと思いうれしい限りである。ただし、時数の関係で教科で扱えるのはこの5時間が限界である。今後は、総合的な学習の中で具体的な交流活動に発展させていければと考えている。

紙幣から見るザンビア

— 自国の誇り・国民の願いが込められた紙幣から学ぶ国際理解 —

内山えり子

UCHIYAMA ERIKO

埼玉県蕨市立第二中学校/国語

実践教科/道徳

時間数/4時間

対象生徒・学年/中学校3年

対象人数/38名

カリキュラム案

■実践の目的

今回の研修では、活字で知っていたJICAの開発協力が、具体的な匂いと形と音をもって実感でき、NGOとの協力体制やプロジェクト方式など、新しい試みが実りつつあるという確信がもてたことが、大きな収穫だった。

一方で、被援助国の国民が、自らの力で国を興す

のだという自信と誇りを持ち続け、具体的な行動を自ら起こしていけるような国際援助のあり方の大切さについて考えさせられた。

そこで、ザンビアの紙幣に込められた国の誇り、国民の願いを読み取り、更に日本人にとっての誇り、世界に向けての願いをデザインすることにより、国を愛する心を共有し、互いの文化や伝統を敬う態度の育成を図ることをねらいとした。

■授業の構成（国際理解の観点から）

時限/テーマ/ねらい

方法・内容

使用教材

1時限

- ザンビアって？
- 導入として、ザンビアに興味・関心を持つ

- (1)アフリカ全図の白地図を各班に配り、ザンビアの位置をマークする。
- (2)ザンビアについての話を聞く。
- (3)ビデオを見て、町並みや人々の様子を知る

- (1)白地図
- (2)GEKKAN NZ
(月刊ニュージー)
「歴史散策一夢と勇気を与えた人々」(五月
女氏連載)
- (3)ザンビアで収録したビデオ
(首都ルサカ、地方の
農村、学校など)

2時限

- ザンビアの紙幣からザンビアの心を知る
- ザンビアの紙幣に描かれている図柄から、ザンビアの誇り・願いを読み取る

- (1)班別に配られた紙幣の図柄について調べる。
(ワークシート①)
- (2)調べてみて、分かったこと、気づいたことを話し合う。

- (1)ザンビアの紙幣(20,100、
500,1000,5000,10000
クワチャ紙幣) (資料1)
- (2)書籍、雑誌、新聞、各種資料
- (3)ワークシート① (資料2)

3時限

- 発表会
- 互いに調べたことを分かりやすく発表し、知識を共有する

- (1)各班で調べて、分かったこと、気づいたことなどを、発表する。

- (1)ワークシート① (資料2)

40分限

- 日本の紙幣をデザインする
- ◎日本人にとっての誇り、世界へ向けての願いをデザイン化することにより、紙幣のデザインに込められた願いの深さを実感し、互いの国の文化や伝統を尊重する態度を養う

- (1)日本が世界に誇れるもの、日本を象徴するもの、世界へ向けての私たちの願い(メッセージ)について考え、ワークシート②にまとめる。
- (2)紙幣をデザインする。
- (3)まとめとして感想を書く。

- (1)ワークシート② (資料3)
- (2)デザインのための参考資料 (資料4)

授業の詳細

1時限目 ザンビアに関心を持つ「ザンビアって?」

- 1 クラスを6~7人ずつの6班に分けて、話し合いで白地図上にザンビアの位置を記入し、発表し合って正しい位置を確認する。
- 2 五月女大使の講話の概要を中心に、ザンビアの地理・歴史・経済・お国事情などについての説明を聞く。
- 3 研修中に撮影したビデオ(ルサカ市内の町並み、学校や孤児院の様子など)を視聴し、生き生きと活動するザンビアの人々に共感を持つ。

2時限目 ザンビアの紙幣からザンビアの心を知る

- 1 班ごとに一種類ずつ渡された紙幣の図柄について調べる。(資料1)(BGMとして、現地で購入した民族音楽や今流行している曲を流す。)

紙幣に描かれている動植物、建物、収穫の風景、自由の像などについて、ジャンル別のコンサルタント役(各班から一名ずつ選出)の手元に資料(書籍、雑誌、新聞、各種資料、インターネットによる情報など)を渡し、各班のそれぞれの担当者が相談に行く形式で、調べ学習をする。
- 2 各人が情報を班に持ち帰り、分かったこと、気づいたことなどをワークシート①(資料2)にまとめ、ザンビア人の誇り、願いについて話し合う。

生徒の話し合いの中から

- ・アフリカの多くの国が植民地になっていたことをはじめて知った。
- ・アフリカといえば「象」という私なりのイメージが、紙幣の図案の中にも生かされていて、興味深かった。

- ・とても貧しい国だと思っけれども、音楽などを聴いているととても楽しそうなので、ザンビアの人は幸せに暮らしているのだと思う。自分の暮らしを楽しめる人たちは素晴らしい。
- ・日本の紙幣より色彩が豊かで、きれい。
- ・最初はあまり興味がなかったけれど、調べていくうちに興味が湧いてきたし、面白くなってきた。
- ・ザンビアの特徴がわかるものや、象徴的なものがデザインされていて、とても面白かった。
- ・「自由」を象徴する像がどの紙幣にも描かれていて、ザンビアの人たちの願いが伝わってきた。

授業実践を通しての所感

- ・ザンビアについての資料が十分でなかったため、紙幣の図柄について、現地でももう少し詳しい情報を仕入れてくるべきだったと思う。また、新聞のチラシなども有効な教材になることが分かった。
- ・生徒たちはコンサルタントを中心に、限られた資料を最大限に生かして、助け合い学習を展開していた。
- ・BGMは、その陽気さが好評で、作業の雰囲気作りに有効であった。

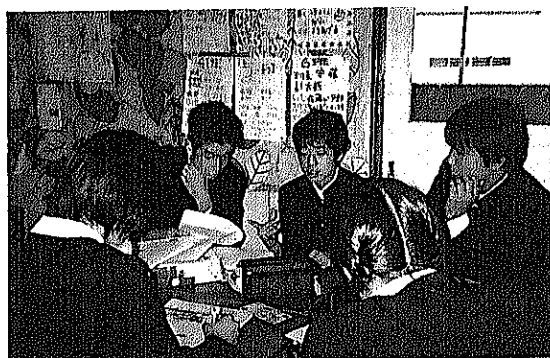
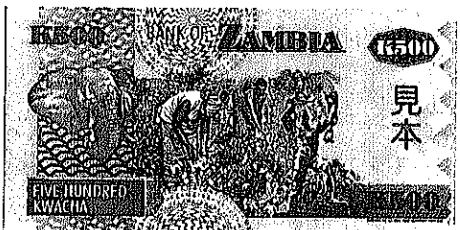
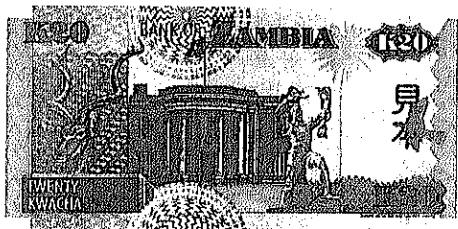
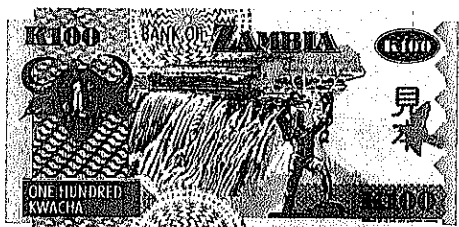


写真1 2001.10.4. 道徳(2限目)3年2組教室
課題別に各班から集まった生徒たちが、互いに助け合いながら調べ学習

貨幣 1 ザンビアの紙幣



3 まとめとして、ザンビアの紙幣から受け取ったザンビアの人々のメッセージ(願い)に思いを馳せ、感想を書く。(資料4)

生徒の感想から

- ・今回の授業で、遠い国だと思っていたザンビアについて知ることができた。機会があったら、もっといろいろなことを知りたい。
- ・どんな国にも、その国その国に良いところがあるし、大きな国は小さな国に対して援助して、お互いに良い

- ところを伸ばしてゆけたらいいと思う。
- ・今の日本は物質的には豊かだけれども、良い国とは言えないと思う。私は自分の国だから日本は好きだけれど、「日本ももっとこうなれば……」と思うことがある。日本はもっと優しい国になりたい。
- ・みんな同じように平和を願い、幸せを望んでいることが実感できた。
- ・みんな平等に楽しく生きられることが、平和になる大切な条件だと思う。
- ・世界の中には経済の格差が激しいところが多いと思った。お金の援助だけではダメだと思った。

資料3 ワークシート②

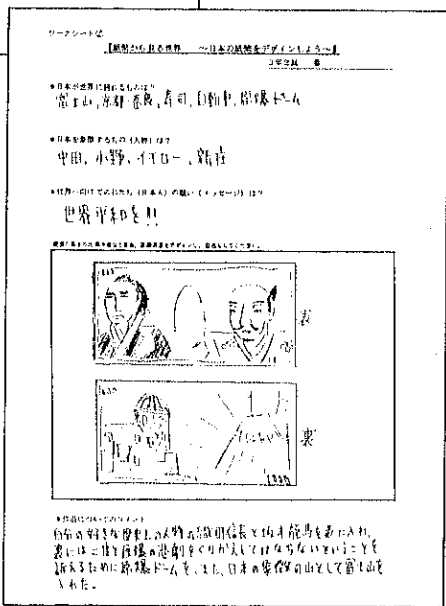
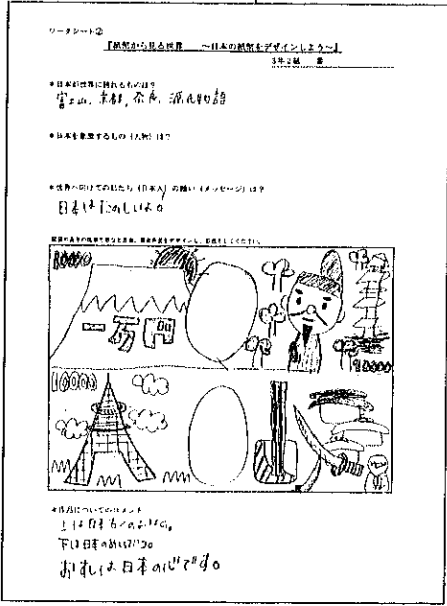
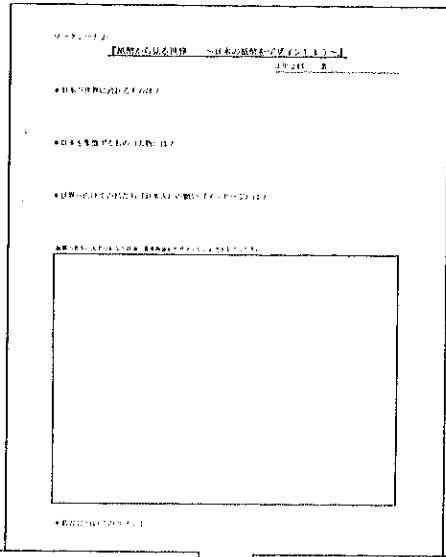




写真4 道徳（4限目）3年2組廊下
私のデザインした「日本の紙幣」です
（廊下に掲示した「ザンビアを読み取ろう」の前で）

- ・いつか僕も、アフリカなどに行って役に立ちたい。
- ・今の時代は、自分の国だけでなく、世界の国々にも目を向けなければならないという思いを持っている。
- ・ザンビアなんて、名前を聞いても良く分からなくて、調べる資料があるのか心配だったけれども、なんとかザンビアの文化や特色などが分かり、とても楽しかった。
- ・どの国でも、その土地の風土を生かして頑張れば良いと思う。大変な国は、周囲の国から援助を受けられるだろうから、それを元に頑張れば良いと思っている。
- ・たくさんの国に行って、その国の現状を知ることが、本当の意味でその国を知ることになるのだと思う。多くの国に行って、多くの人と話をしたい。

■授業実践を通しての所感

- ・紙幣の図柄として多かったのは、富士山や金閣寺などの歴史的建造物、織田信長・坂本竜馬などの英雄をモチーフとしたものであったが、原爆ドームや鳩など平和を訴えるものも目立った。アメリカの同時多発テロやアフガニスタン問題など、生徒なりに心を痛めていることが感じ取れた。刻々と変わる世界の情勢の中で、互いの文化を尊重し、他人の痛みを自分のこととして捉え、グローバルな視野に立った世界市民として、生徒と共に学び続けたいと思う。
- ・生徒たちは、どんな国にも自分たちと同じように幸せを願う人たちがいるということを確認し、共に歩んでいくことの大切さについて思いを馳せたようである。次の課題としては、自分たちの世代こそがその任にあたるべきであるということを実感させ、その一歩を踏み出すための手立てについて学習を深めていきたいと思う。

資料4 アンケート

アンケート

【国物から見る世界 ～日本の紙幣をデザインしよう～】を学習して
（学年） 年

1. 国物、紙幣をどう思いましたか。
2. ザンビアの国物から、どんなことが分かったか、どんなことが印象に残りましたか。
3. 国物、紙幣をどう思いましたか、ザンビアの文化や特色などについて印象に残りましたか。
4. ザンビアの国物から、どんなことが分かったか、どんなことが印象に残りましたか。
5. 国物、紙幣をどう思いましたか、ザンビアの文化や特色などについて印象に残りましたか。
6. その他、気になったことはありますか。

「豊かさ」と「貧しさ」の違いを探る

武部公也

TAKEBE KIMIYA

神奈川県茅ヶ崎市立円蔵中学校 / 社会科 (3年公民的分野)

実践教科 / 社会科 (3年公民的分野) 時間数 / 4時間

対象生徒・学年 / 中学校3年

対象人数 / 146名

カリキュラム案

■実践の目的

中学校3年生の社会科（公民的分野）では、変化の激しい国際社会における経済を多角的に考察することを重視している。また、国際社会における相互理解を大切にしている。しかし、実際には生徒は欧米諸国への興味・関心は示すものの、発展途上国の

諸課題に対しては積極的に学ぼうという意欲があまり見られない。今回は、アフリカのザンビアを教材として「豊かさ」と「貧しさ」の違いについて考えさせたい。

また、学習過程でWebbingやRankingだけでなく、グループ討論を行いお互いの考えを交換しながら、思考を深めていくことを目標とした。

■授業の構成

時限 / テーマ / ねらい	方法・内容	使用教材
10時限 ○経済用語を学ぼう ○日本とザンビアを比較しよう	(1)必要な経済用語を整理する (2)資料を利用して比較する	学習プリントNo38 資料 (資料1)
2時限 ○写真から疑問を探そう ○Webbingに挑戦 ○Key wordは何?	(1)ザンビアの写真から考える (2)班でWebbingし、Key wordを探す	写真 Webbing用紙 (資料2)
3時限 ○「貧しさ」「豊かさ」とは ○両者の違いはどこから?	(1)他の班の発表を聞いて、貧富についての考えを深める	ワークシート (資料3)
4時限 ○「援助」って何?	(1)経済援助について考え、自分でできる事を考え直す	ワークシート (資料4)

授業の詳細

10時限目

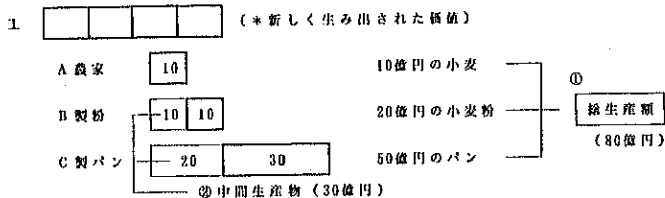
日常生活において、新聞やテレビで目にする経済

用語をきちんと理解している生徒は意外に少ない。今回、ザンビアを題材として「南北問題」に少しでも近づきたいと考え、用語を整理（資料1参照）しながら、日本とザンビアを比較してみた。様々な資



学習テーマ 「経済用語を正確に理解しよう。」

もし、ある国に、小麦を作るA農家(10億円生産)と、小麦粉を作るB製粉(20億円生産)と、パンを作るC製パン(50億円生産)しかなかったとしたら...



2 = 総生産額 (80億円) - 中間生産物 (30億円)

(G N P (Gross National Product))

* 1993年12月から経済統計として違う指標が使われ始めた。

3 = GNP - 海外での生産額

4 = A 農家 10億円 + B 製粉 10億円 + C 製パン 30億円 = 50億円

(付加価値の合計) (20-10) (50-20)

5 = $\frac{\text{ある年のGDP} - \text{前年のGDP}}{\text{前年のGDP}} \times 100$

研究1 日本とザンビアを比較してみよう。

	日 本	ザンビア
1 人 口		
2 面 積		
3 人口密度		
4 GDP		
5 国民所得		

(一行作文) GNPやGDPが高ければ本当に幸福になれるのでしょうか。

料をインターネットなどで調べ、以下のような現状を生徒達は把握した。

	ザンビア	日 本
国 土	1	0.5
人 口	1	12
GNP(1人あたり)	1	100
GNP(国全体)	1	1200
国 家 予 算	1	530
平 均 給 与	1	50~100

2時限目

ザンビアの現状を理解するために、私が撮影した

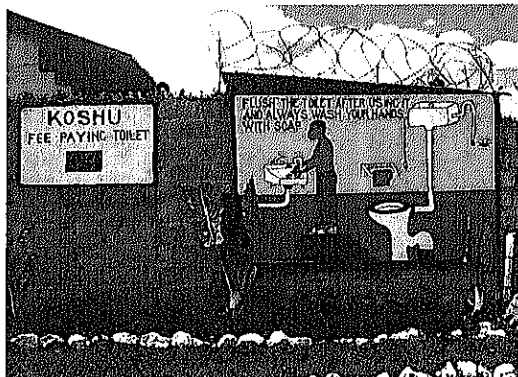
1枚の写真(写真1参照)から気づいた事を5分間で10以上あげさせてみた。写真はザンビアの首都ルサ



写真1

掲示板に貼った写真

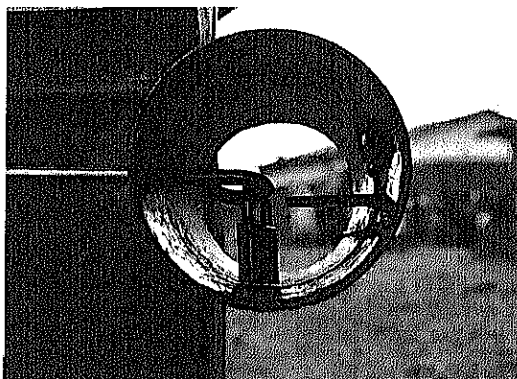
ザンビアの生活と人々



保健の第一歩は「有料トイレ」
名前も「KOSHU」（公衆）



ジンバブエ国境付近
内陸部の輸送の主役はトレーラー



「これは何？」
有料水道施設の鍵の防護策



就学前の学習
一冊の教科書をみんなで……



ザンビアの聴覚障害児の微笑み
寄宿舎の校庭で……



村長（むらおさ）と第2夫人
手前は村落開発普及担当の隊員

3時間目

前時に実施したグループ・ワークを発表し、他の班の発表を聴いて参考にして次の課題に進むことになった。発表の様子が写真3 (p.29) である。発表の後、「貧しさ」「豊かさ」両方のランキングを再度実施することになった。そのランキングの状況を学年全体で集計すると右記のような言葉がKey wordとしてあげられた。

各班独自で行ったWebbing時と比較するとかなりKey wordは整理されたようである。特に、発表後両者の中に「自然」が顔をだしたことは興味ぶかい。また、「貧しさ」の上位に「失業」がランクされた

「豊かさ」		「貧しさ」	
Webbing時	グループ発表後	Webbing時	グループ発表後
1 金持ち	お金	1 病気	病気
2 お金	先進国	2 戦争	発展途上国
3 食べ物	食べ物	3 ホームレス	戦争
4 豪邸	自然保護	4 発展途上国	失業
5 先進国	経済活動	5 お金	お金
6	アメリカ	6 食料不足	自然破壊

のは現代的と言えるのではないだろうか。

そして、いよいよ学習の中心発問である「豊かさ・貧しさの違いはどこから生まれるか」というテ

写真3

個別学習ノート	2001年10月18日(木) 使用	記録者	3年 組 班	(氏名)																	
課題1 「豊かさ」「貧しさ」のキーワードを決定しましょう。			(メンバー)																		
<table border="1"> <thead> <tr> <th>豊かさ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1 金持ち</td></tr> <tr><td>2 先進国</td></tr> <tr><td>3 自然保護ができる</td></tr> <tr><td>4 寿命が長い</td></tr> <tr><td>5 食料が豊富</td></tr> </tbody> </table>		豊かさ	1 金持ち	2 先進国	3 自然保護ができる	4 寿命が長い	5 食料が豊富	<table border="1"> <thead> <tr> <th>貧しさ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1 失業</td></tr> <tr><td>2 犯罪</td></tr> <tr><td>3 豪住民</td></tr> <tr><td>4 戦争</td></tr> <tr><td>5 お金なし</td></tr> </tbody> </table>			貧しさ	1 失業	2 犯罪	3 豪住民	4 戦争	5 お金なし					
豊かさ																					
1 金持ち																					
2 先進国																					
3 自然保護ができる																					
4 寿命が長い																					
5 食料が豊富																					
貧しさ																					
1 失業																					
2 犯罪																					
3 豪住民																					
4 戦争																					
5 お金なし																					
課題2 違いはどこから?																					
<ul style="list-style-type: none"> ● 国と国のつながりがあるかないか。 (国境がある/国境や国境が交通のしやすさから経済活動が活発化する) ● 宗教的な文化があるかないか。 (宗教がある/戦争になりやすい国がある) ● 資源と経済的な活動があるかないか。 (資源の買取りと活用できると豊かになる) 																					
課題3 貧しい国や地域にどんな援助をすればよいでしょうか。			課題4 君自身は何ができるか。																		
<table border="1"> <tbody> <tr><td>1 自分やその国に行き、その貧しさを体験し、どうな事をすればいいか考える</td></tr> <tr><td>2 教育の仕組みを変えていこう</td></tr> <tr><td>3 姉妹国になる</td></tr> <tr><td>4 貧しい国同士でついに協力し合う</td></tr> <tr><td>5 心のケア</td></tr> </tbody> </table>			1 自分やその国に行き、その貧しさを体験し、どうな事をすればいいか考える	2 教育の仕組みを変えていこう	3 姉妹国になる	4 貧しい国同士でついに協力し合う	5 心のケア	<table border="1"> <tbody> <tr><td>植村</td><td>心理学を学ぶ</td></tr> <tr><td>塚田</td><td>ザンビアへ行く</td></tr> <tr><td>菅原</td><td>特殊教育の専門家になる</td></tr> <tr><td>遠藤</td><td>貧しい人ともいえる事を全ての国民に呼びかける</td></tr> <tr><td>鈴木</td><td>生活用具の改良を進める</td></tr> <tr><td>柳澤</td><td>農業技術の普及に協力する</td></tr> </tbody> </table>		植村	心理学を学ぶ	塚田	ザンビアへ行く	菅原	特殊教育の専門家になる	遠藤	貧しい人ともいえる事を全ての国民に呼びかける	鈴木	生活用具の改良を進める	柳澤	農業技術の普及に協力する
1 自分やその国に行き、その貧しさを体験し、どうな事をすればいいか考える																					
2 教育の仕組みを変えていこう																					
3 姉妹国になる																					
4 貧しい国同士でついに協力し合う																					
5 心のケア																					
植村	心理学を学ぶ																				
塚田	ザンビアへ行く																				
菅原	特殊教育の専門家になる																				
遠藤	貧しい人ともいえる事を全ての国民に呼びかける																				
鈴木	生活用具の改良を進める																				
柳澤	農業技術の普及に協力する																				

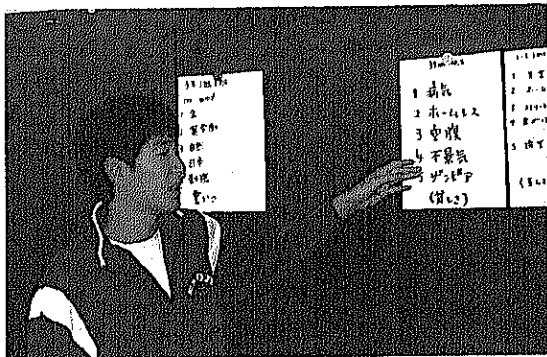


写真3

一々にグループで取り組んだ。紙面の関係で、一つの班のワークシートだけしか提示できないが、その後の課題に対してもかなり意欲的に意見交換がなさ

れた。(資料3参照) 貧富の「差」の原因として生徒があげたものを整理すると以下のようになる。

- ①国の地形・気候の違いによる。
- ②資源や資源を利用する技術や資金の有無による。
- ③教育制度や新しい発想を尊重する柔軟な文化的環境の違いによる。
- ④宗教上の制約や受容する範囲の違いによる。
- ⑤植民地など歴史的な背景の違いによる。
- ⑥他国との交流に対する柔軟性の違いによる。
- ⑦多民族国家など人種的な国家の構成の違いによる。

意見交換

貧しい地域や国にどんな援助ができるか

3年 組 番 (氏名) _____

今、資金や技術の援助はされていて、ある程度は役立っているとは思いますが、それはきっと表面上だけ、本当に援助すべきことはまだ援助されていないと思う。政府がやっているのは心から援助したいと思っ

てしているのでは無く、国との付き合い、世界に対する世間体みたいなもので援助しているのだと思う。

だから今、「何を援助できるか？」を考えるんじゃなくて、「どうしたら同じ目線に立てるか？」を考えた方がいいと思う。

だって「貧しい地域や国にどんな援助できるか？」って、いうのは自分の立場が上って考えてる人が考えることだ”と思うから。

これでは本当の援助は出来ないと思う。私は「自分の立場が上」で考えると援助すべきものは「資金」「技術」というのがすぐ浮かんでくるけど、同じ立場で援助するものを考えると何をすべきが浮かんできません。

立場を同じにして考えるのは難しいがもしなかりけど、本当にしなれば”いけなのはこれだ”と思いました。

10月31日(水) 朝読までに社会科係に提出